

国下池 (くにしたいけ)



諸元

貯水量	403 千m ³
満水面積	9.6 ha
受益面積	52.6 ha
堤高	2.6 m
堤長	480 m

国下池は昔、真ん中に堤があって、南側の上池と北側の下池に分かれていましたが、後に堤が取り払われ、今のように一つの池になったと伝えられています。宝暦5年(1755年)の池の記録「池泉合符録」に、国下池はかんがい石高六十四石余と記載があります。六十四石余の水田というと、現在の三木・長尾両町にまたがっていたと推測され、宝暦期には既に一つの池となっていたと見られています。国下池には井戸揺・上揺・大揺と三か所の揺が設けられていますが、これは二つに分かれていた時のなごりで、井戸揺は上池、上揺と大揺は下池の水を抜いていたと考えられています。

江戸時代後期から昭和の初めにかけて、長尾側にある国下池掛りが大きく増加し、水不足に悩むようになりました。この状況を一変させたのは、昭和52年(1977年)の香川用水の導入です。井戸揺のすぐそばに香川用水からのパイプが通じ、毎年7月11日から9月末までの間に11万2千トンの水の供給が受けられるようになりました。その後、水が豊富になったとは裏腹に、堤や揺の劣化が目立ってきたため、団体営ため池等整備事業によって昭和53年(1978年)4月から昭和60年(1985年)2月にかけて抜本的な修理を行い、今日に至っています。



国下池



洪水吐と改修記念碑